



## 2021年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2021年1月14日

上場会社名 株式会社 柿安本店

上場取引所 東

コード番号 2294 URL <https://www.kakiyasuhonten.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤塚 保正

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 赤塚 義弘

TEL 0594-23-5500

四半期報告書提出予定日 2021年1月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年2月期第3四半期の業績(2020年3月1日～2020年11月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	26,053	17.6	324	76.9	428	70.9	174	
2020年2月期第3四半期	31,616	0.9	1,406	12.1	1,471	12.7	892	15.7

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	16.63	
2020年2月期第3四半期	85.30	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第3四半期	18,555	14,363	77.4
2020年2月期	20,133	15,333	76.2

(参考)自己資本 2021年2月期第3四半期 14,363百万円 2020年2月期 15,333百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期		0.00		75.00	75.00
2021年2月期		0.00			
2021年2月期(予想)				75.00	75.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年2月期の業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	36,800	16.2	1,000	58.8	1,100	56.2	230	84.7	21.97

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期3Q	12,446,700 株	2020年2月期	12,446,700 株
期末自己株式数	2021年2月期3Q	1,978,841 株	2020年2月期	1,978,814 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期3Q	10,467,869 株	2020年2月期3Q	10,467,886 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第3四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(追加情報) .....	6
(セグメント情報等) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が依然として大きく、一時的には政府の各種施策や新しい生活様式の普及により新型コロナウイルス感染症拡大は抑えられ、経済活動に回復傾向が見られましたが、今冬の全国的な新型コロナウイルス感染症再拡大により、再び予断を許さない厳しい状況となっております。

当社が属する食関連業界においても、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境において、当社ではお客様並びに従業員への新型コロナウイルス感染症拡大防止を徹底する一方、「巣ごもり需要」に対応すべく精肉を中心とした自家需要商品の拡充に取り組みました。またCSR活動の一環として、本社のある三重県桑名市にて、和菓子工場「柿安スイーツファクトリー」で定期的開催している「柿安工場感謝祭」を更に充実いたしました。こちらは精肉・惣菜・和菓子をはじめとする柿安の様々な人気商品をお値打ちに提供しご好評をいただいております。

売上については、第1四半期会計期間(2020年3月～5月)、第2四半期会計期間(2020年6月～8月)は、全社既存店売上前年比はそれぞれ66.1%、90.1%と緊急事態宣言解除後から上向きに推移し、第3四半期会計期間(2020年9月～11月)においては、同97.2%まで回復しております。

出退店・改装につきましては、5店を出店、6店を改装、25店の退店を行いました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は26,053百万円(前年同期比17.6%減)、営業利益は324百万円(同76.9%減)、経常利益は428百万円(同70.9%減)、四半期純損失は174百万円(前年同期は892百万円の四半期純利益)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期会計期間より報告セグメントの区分を一部変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

#### (a) 精肉事業

精肉事業につきましては、日常使い商品である「小間きれ」や「切り落とし」のブラッシュアップを行った他、5月の緊急事態宣言解除後から続く「巣ごもり需要」を取り込み、第3四半期会計期間(2020年9月～11月)では既存店売上前年比が101.3%と、第2四半期会計期間(2020年6月～8月)に引き続き、前年を上回る売上となり、全社を牽引しました。

出退店につきましては、1店を出店を行いました。

この結果、当事業の売上高は10,802百万円(前年同期比0.2%減)、セグメント利益は1,133百万円(同8.8%増)となりました。

#### (b) 惣菜事業

惣菜事業につきましては、「牛めし」や「メンチカツ」等の肉関連商品の強化を図りました。また業績面では、新型コロナウイルス感染症拡大による影響で第2四半期累計期間(2020年3月～8月)時点ではセグメント利益がマイナスとなっておりますが、当第3四半期累計期間(2020年3月～11月)には黒字化しております。

出退店・改装につきましては、1店を出店するとともに、5店を改装、2店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は7,600百万円(前年同期比21.8%減)、セグメント利益は241百万円(同68.4%減)となりました。

(c) 和菓子事業

和菓子事業におきましては、お彼岸には当店の定番商品の「おはぎ」がご好評をいただきました。また人気の「いちご大福」や「ぶどう大福」等のフルーツ大福シリーズの拡充による活性化に努めました。出退店・改装につきましては、2店を出店するとともに、1店を改装、8店の退店を行いました。この結果、当事業の売上高は4,594百万円(前年同期比13.8%減)、セグメント利益は116百万円(同51.5%減)となりました。

(d) レストラン事業

レストラン事業につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、5月の緊急事態宣言解除後も、新しい生活様式の普及などにより外食自粛ムードが定着化している傾向にあり、更に今冬の新型コロナウイルス感染症再拡大も重なり非常に厳しい状況が続く中で、不採算店舗の退店を行う等、事業のスリム化に努めました。

それに伴い出退店につきましては、1店を出店するとともに、14店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,742百万円(前年同期比57.4%減)、セグメント損失は659百万円(前年同期は80百万円のセグメント損失)となりました。

(e) 食品事業

食品事業につきましては、ご好評いただいている「すき焼井」等商品の拡充や新規販路拡大による売上回復に取り組みましたが、依然新型コロナウイルス感染症拡大の影響により百貨店への集客は重く、業績に影響しました。

出退店につきましては、1店の退店を行いました。

この結果、当事業の売上高は1,313百万円(前年同期比20.4%減)、セグメント利益は198百万円(同35.0%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末に比べ1,578百万円減少し、18,555百万円となりました。

流動資産は1,083百万円減少し、10,763百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少1,469百万円、商品及び製品の増加94百万円及び仕掛品の増加90百万円等であります。固定資産は495百万円減少し、7,791百万円となりました。主な要因は、建物の減少286百万円、差入保証金の減少67百万円及び工具、器具及び備品の減少30百万円等であります。

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ607百万円減少し、4,192百万円となりました。

流動負債は539百万円減少し、3,621百万円となりました。主な要因は、未払法人税等の減少446百万円及び未払消費税等の減少305百万円と買掛金の増加403百万円等であります。固定負債は68百万円減少し、571百万円となりました。主な要因は、資産除去債務の減少74百万円等であります。

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ970百万円減少し、14,363百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の減少959百万円等であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2020年10月9日に発表いたしました2020年2月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)に記載しております予想から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (2020年2月29日)	当第3四半期会計期間 (2020年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,087	6,618
売掛金	3,090	3,162
商品及び製品	277	372
仕掛品	181	272
原材料及び貯蔵品	186	206
その他	23	131
流動資産合計	11,846	10,763
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	3,212	2,925
土地	2,224	2,224
その他(純額)	744	678
有形固定資産合計	6,182	5,828
無形固定資産	278	256
投資その他の資産	1,825	1,706
固定資産合計	8,286	7,791
資産合計	20,133	18,555
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,239	1,643
未払法人税等	531	84
賞与引当金	364	429
役員賞与引当金	38	21
その他	1,987	1,441
流動負債合計	4,160	3,621
固定負債		
資産除去債務	570	496
その他	68	74
固定負債合計	639	571
負債合計	4,799	4,192
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,269	1,269
資本剰余金	1,074	1,074
利益剰余金	16,560	15,601
自己株式	△3,542	△3,542
株主資本合計	15,362	14,402
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△28	△39
評価・換算差額等合計	△28	△39
純資産合計	15,333	14,363
負債純資産合計	20,133	18,555

(2) 四半期損益計算書  
(第3四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)
売上高	31,616	26,053
売上原価	16,072	13,310
売上総利益	15,544	12,742
販売費及び一般管理費	14,138	12,418
営業利益	1,406	324
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
受取保険金	17	—
業務受託料	—	5
工事負担金等受入額	26	—
雇用調整助成金	—	80
その他	24	19
営業外収益合計	71	106
営業外費用		
その他	5	2
営業外費用合計	5	2
経常利益	1,471	428
特別損失		
固定資産除売却損	12	7
減損損失	0	237
店舗閉鎖損失	2	169
その他	—	77
特別損失合計	15	491
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	1,456	△63
法人税、住民税及び事業税	525	95
法人税等調整額	37	15
法人税等合計	563	110
四半期純利益又は四半期純損失(△)	892	△174

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大による影響は5月下旬の緊急事態宣言解除以降、事態は沈静化の方向に向かっておりましたが、今冬に入り新型コロナウイルス感染症が再拡大する等、再度予断を許さない状況となっております。しかし、当第3四半期会計期間(2020年9月～11月)は全社既存店売上前年比が97.2%とほぼ前年並みに回復しており、第4四半期会計期間(2020年12月～2021年2月)においても、概ね通常に近い営業活動が遂行できるものと見込んでおります。

この状況の中、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損損失等に関する会計上の見積りを行うにあたっては、当第3四半期会計期間末時点で入手可能な情報に基づき、業績は期末に至るまでは一定の水準が保てるものと仮定しております。

但し、今回の見積りは最善の見積りではありますが、見積りに用いた仮定の不確実性は高く、新型コロナウイルス感染症の更なる再拡大及び、再度の緊急事態宣言発令等により経済環境が大きく変化した場合は上記見積りの結果に影響を及ぼす場合があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,825	9,724	5,327	4,089	1,650	31,616	—	31,616	—	31,616
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,456	15	29	12	762	2,276	—	2,276	△2,276	—
計	12,281	9,739	5,357	4,102	2,412	33,892	—	33,892	△2,276	31,616
セグメント利益 又は損失(△)	1,042	764	240	△80	305	2,271	—	2,271	△865	1,406

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等でありませぬ。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△865百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△899百万円及びその他調整額34百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「レストラン事業」において、店舗設備の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間において、0百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 損益計算書 計上額 (注)3
	精肉事業	惣菜事業	和菓子 事業	レストラン 事業	食品事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	10,802	7,600	4,594	1,742	1,313	26,053	—	26,053	—	26,053
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	1,100	13	25	6	588	1,733	—	1,733	△1,733	—
計	11,903	7,613	4,620	1,749	1,901	27,787	—	27,787	△1,733	26,053
セグメント利益 又は損失(△)	1,133	241	116	△659	198	1,030	—	1,030	△706	324

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、全社催事等であり  
ます。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△706百万円には、各報告セグメントに配分していない全社  
費用△739百万円及びその他調整額33百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメン  
トに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、事業管理部門の変更に伴い、惣菜事業に含めておりました一部の店舗につ  
いて、精肉事業へ報告セグメントを変更しております。なお、前第3四半期累計期間のセグメント情  
報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「惣菜事業」、「和菓子事業」、「レストラン事業」及び「全社資産」において、店舗設備及び東京本部  
施設統合に伴う減損損失をそれぞれ8百万円、33百万円、170百万円、24百万円計上しております。  
なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期累計期間において、237百万円であります。